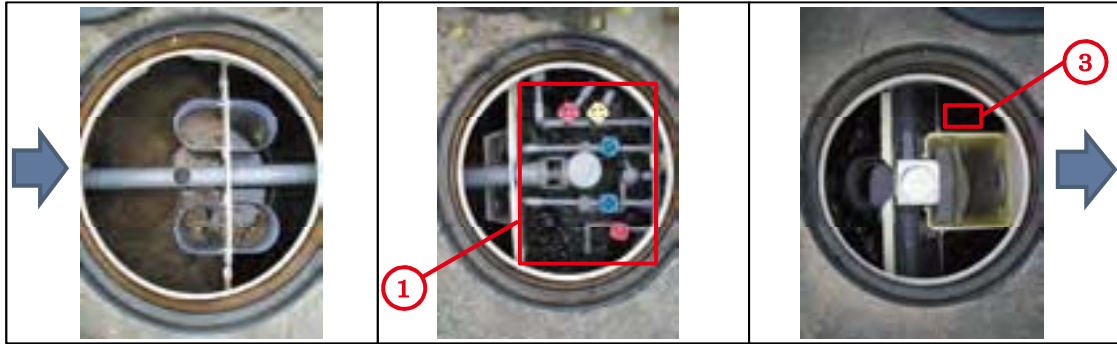


# 構造例示型(事例2) 空気逃がしバルブ調整による水質改善事例

## 【槽内状況】



維持管理要領書より循環水量(汚泥移送量)は平均流入水量の2~4倍(3~6ℓ/分)

事例番号	2		浄化槽メーカー	株式会社		
処理方式	嫌気ろ床接触ばっ気		浄化槽型式	HS-P		
法定検査日	平成 24 年 7 月 25 日		人槽	6 人槽	使用人員	2 人
測定項目	1次処理 1室	1次処理 2室	2次処理	処理水槽/沈殿槽	放流水	
スカム厚(cm)	2	0	—	0	透視度	21 度
堆積汚泥厚(cm)	13	20	0	0	DO	7.2 mg/ℓ
透視度(度)	14	16	17		pH	7.3
法定検査からの 状況連絡・指示内容	槽内状況	使用人員が2人で少ない。 日平均汚水量 0.54m <sup>3</sup> /日 2次処理槽に生物膜の生成がない。 (2次処理槽内透視度17度 逆洗後の透視度15度) 空気逃がしバルブ1/4回転(開) 循環水量 2ℓ/分で稼働。 採水時間13:40				
	対策	DOが7.2mg/ℓと高いため空気逃がしバルブを3/4回転(開)に調整する。 処理水透視度が回復するまで循環水を停止する。				
保守点検からの措置 返信内容	7月30日	指示通り調整する。			透視度	23 度
					DO	7.0 mg/ℓ
					pH	7.1
	8月10日	透視度に変化がない為、常時逆洗運転に切り替える。			透視度	22 度
				DO	5.2 mg/ℓ	
				pH	7.2	
8月24日	透視度回復。通常運転に戻す。 空気逃がしバルブ3/4回転(開)。 循環水は停止して様子見る。			透視度	37 度	
				DO	4.4 mg/ℓ	
				pH	6.9	

## 【ポイント】



2次処理(接触ばっ気槽)の状況  
生物膜の生成がない。

2次処理槽内水の状況(白濁している)  
以前に、ばっ気を上げて調整したが、  
透視度は改善されなかった。

沈殿槽の堆積汚泥厚測定 0cm  
汚泥は無く、薄く白濁している。